

令和3年度

施策評価表(令和2年度の実績評価)

記入年月日
令和 3 年 6 月 24 日

施策No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	建設課	主管課長名	五十嵐 貴裕
5-3	施策名	道路網の整備	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

目

施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
市内の道路	①市内道路延長(国道、県道、市道)	km	見込値	1,638	1,639	1,640	1,641	1,642
			実績値	1,631	1,631	1,631	1,632	
			見込値					
			実績値					
			見込値					
			実績値					
施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
利用者が安全で快適に通行できる環境が整っている。	①道路未改良延長(一級・二級市道)	m	目標値	20,000	19,700	19,400	19,100	18,800
			実績値	20,434	19,916	19,240	19,008	
	②市内の道路が安全だと感じる市民の割合	%	目標値	22.5	25.0	27.5	30.0	32.5
			実績値	20.8	21.1	21.8	25.1	
	③危険箇所数(通学路)	箇所	目標値	56	55	54	53	52
			実績値	21	25	11	1	
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

的

成果指標設定の考え方	○市内の道路交通については、①で幹線道路の改良が進んでいるか、②で市民が道路の安全性にどの程度満足しているか、③で危険箇所数で通学路の安全対策が進んでいるか、で把握する。
成果指標の把握方法と算定式等	○①道路未改良延長(一級・二級市道)は、国土交通省道路局の道路施設現況調査より求める。②市内の道路が安全だと感じる市民の割合は、市民アンケートより求める。③危険箇所数(通学路)は、通学路安全推進会議(通学路交通安全プログラム)より求める。

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	☒ 成果がかなり向上した	☐ 成果がどちらかといえば向上した	☐ 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	☐ 成果がどちらかといえば低下した	☐ 成果がかなり低下した	
背景・要因	市内の道路が安全だと感じる市民の割合については、東日本大震災により落ち込んだが、国庫交付金事業の通学路整備や橋梁長寿命化・定期点検事業等、毎年の事業の成果もあり徐々に回復しここ数年20%を超えるまで戻った。昨年度は、多くの行政区要望に対応するため、補正予算を組んで生活道路の改良工事や維持補修工事を行ったので、実績値の上昇につながっていると考えられる。 道路未改良延長(一級・二級市道)については、令和元年度は19,240m、令和2年度は19,008mであり232m向上した。 危険箇所数(通学路)については、令和元年度は11箇所、令和2年度は1箇所であり10箇所減少した。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	☐ 目標値のすべてを上回った	☒ 一部の成果指標で目標値を上回った	☐ 目標値どおりの成果であった
	☐ 一部の成果指標で目標値を下回った	☐ 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①道路未改良延長(一級・二級市道)については、幹線道路の改良を実施しており、着実に数値を伸ばしている。 ②市内の道路が安全だと感じる市民の割合については、目標値には及ばなかったが、毎年向上している。 ③危険箇所数(通学路)については、道路補修の優先箇所として危険度を重視しているため、かなりの箇所数を対応した。 評価については、危険箇所数(通学路)が目標値を大きく上回っているため、「一部の成果指標で目標値を上回った」と判断した。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。 「道路改良事業」により、市民がスムーズに快適に市内を移動できるように、新規路線の整備、既存市道の拡幅、側溝整備、通学路整備等の改良を図った。 補正予算を組み「道路補修事業」を例年以上に対応したことにより、より多くの経年劣化した道路施設の補修を行え市内の通行危険箇所の解消につながった。 「上管トンネル整備事業」では、市道M2760号線(上管トンネル)の整備について、工事発注後の諸調整や設備工事協議を行い、事業進捗を図ることができ、市道の整備に貢献した。	道路利用者が安全で快適に通行できる環境を整えるため、市内の道路網の整備を図る。 昨年度に引き続き、市道の「道路改良事業」、「道路補修事業」に重点的に取り組み、合わせて本市と周辺地域間の交流の活性化等を促すため、本市と周辺地域間を結ぶ幹線道路の整備促進を国・県に働きかけていく事にも力を入れて取り組んでいきたい。 また、防災・減災、国土強靱化の考えに基づき、新たな財源を活用し道路網の整備、改修に取り組んでいきたい。